

144 土合1号古墳



指定 市史跡 昭和25年12月1日
 所在地 甲
 所有者 金箱 保



土合古墳群は甲地区に所在し、現在6基の古墳が現存する。このうち1号古墳は現在までに3回の発掘調査が行われた極めて珍しい古墳であり、出土品が旧東京帝室博物館に所蔵されていたことから、戦前より存在が広く知られた古墳である。

本古墳の調査は明治32年（1899）、昭和44年（1969）、平成4・5年に行われた。この3回の調査結果により、1号古墳は墳丘径約10m、埋葬施設は南向きに開口する長さ5mの横穴式石室であることが判明した。この石室は、玄室中央部を薄い鉄平石により仕切り、奥と手前の2室に分けた副室構造と捉えられている。

出土遺物は非常に豊富で、直刀やこれに付随する刀装具、鉄鏃などの武器類、馬具である轡、勾玉・管玉・切子玉などの玉類、須恵器の甕や平瓶があった。このうち古墳副葬品としては希少な両刃鋸や銀象嵌を施した八窓鏝や円頭柄頭が含まれており注目される。これらの出土遺物により本古墳は7世紀後半に築造されたと考えられる。

本古墳は、規模やその副葬品の内容から、古墳時代後期の佐久平における古墳の様相を端的に示す好例で貴重である。